

令和6年8月19日

中野区消防団運営委員会（第2回）次第

1 委員の委嘱

2 議事

- (1) 今回の諮問事項に係る答申案の検討について
- (2) 委員会日程について
- (3) その他

【配布資料】

- 中野区消防団運営委員会委員名簿
- 資料1 中野区消防団運営委員会における答申（案）概要について
- 資料2 中野区消防団運営委員会における答申（案）について
- 資料3 消防団員アンケート結果
- 資料4 町会・自治会に対するアンケート結果
- 資料5 町会・自治会に対するアンケート用紙
- 資料6 委員会日程（案）

令和6年度中野区消防団運営委員会委員名簿

	氏 名	備 考
委員長	酒井 直人	中野区長
委 員	高倉 良生	学識経験者
委 員	西沢 けいた	
委 員	荒木 ちはる	
委 員	河原井 守	
委 員	大野 道高	
委 員	ひやま 隆	区議会議員
委 員	山内 あきひろ	
委 員	小林 ぜんいち	
委 員	黒沢 ゆか	
委 員	吉田 康一郎	
委 員	石坂 わたる	
委 員	稲田 善彦	中野消防署長
委 員	関 正子	野方消防署長
委 員	野中 幸雄	中野消防団長
委 員	日高 泰夫	野方消防団長

※（敬称略、委員長を除き順不同）

中野区消防団運営委員会における答申（案）概要について

1 諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか
（審議期間:令和5年8月から令和7年3月まで）

2 諮問の趣旨

特別区消防団は地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。さらに、昨年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

3 答申（案）

課題	検討の方向性	中野区消防団運営委員会における答申（案）【資料2参照】
入団し活動を継続したい と思える組織の活性化方策 について、区の地域特性や 消防団の現況（構成等）を踏 まえ検討する。	(1) 団活動によりやりがいを持てる方策 ・やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがある かなどを検討 ・検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討 (2) 資格取得講座の拡充等の検討 ・既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等につい て検討 ・多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団 員への講話や研修の検討 (3) 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養 講座の検討 ・各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等 と連携した講習や講座、ワークショップの発掘	1 団活動にやりがいを持てる方策 アンケート結果では74%の団員が、①災害活動、②操法大会などの各種訓練、③防災訓練等の地域住 民への指導、④救命講習指導、⑤地域行事での警戒活動、⑥広報活動など、消防団としての活動のほぼ全 ての項目でやりがいを感じている。 一方で、26%の団員が「どちらともいえない」または「やりがいを感じていない」との回答であり、 「やりがいを感じられるようになるためにはどうすれば良いと思うか」を聞いた結果、①実戦的な訓練 （消火、救助及び資器材取扱い訓練等）の充実を図る、②人間関係の充実（他の団員との交流、地域住民 との密接な関係性構築や連携）を図る、③操法大会の見直し（都大会出場年以外は震災対応訓練にするな ど中止又は隔年での実施等）について検討する必要があるとの回答があった。 また、30～40代の比較的団歴が浅い団員は、仕事や子育て等家庭の事情などと、消防団活動（平日 夜間の訓練や休日の防災訓練指導及び警戒等）の調整に苦慮している状況が見られる。 以上のことから、団員がやりがいを持って団活動を継続するには、実災害時に地域のために効果的な 活動ができるよう実戦的な訓練の充実を図り、地域住民及び他の団員との良好な人間関係を構築すると ともに、30～40代の子育て世代団員の負担軽減策等を検討していく必要がある。 2 資格取得講座の拡充 消防団員として今後取得したいと思う資格として、救急関係、無線関係及び重機関係の順で回答が多 い。しかし、救急関係を除き資格取得講座の受講割当は、消防団ごとに年間数名であり、希望する全ての 団員が受講できる環境ではないことから、研修回数の増加等を図る必要がある。 さらに、防災士、危険物取扱者及び消防設備士等の資格取得を望む団員もいることから、新たな資格取 得研修の導入の検討をしていく必要がある。 また、デジタルスキルや無線に関する知識など、消防団活動に有益となる知識を持つ消防団員もいるこ とから、他の団員に対する講話や研修の機会を設けることで、団員の多様な能力を活かすとともに、消防 団全体の能力向上が期待できる。 3 地域と密着した各種講習や教養講座の発掘 地域の各種団体や事業所等からの要請による救命講習では、消防団員が指導者として大きな力となっ ている。今後さらに、消防団協力事業所等と連携した講習、講座や地域で行われるワークショップへの参 画など、様々な機会を通じて地域との関係性を強化していくことで、消防団員のやりがいの向上が期待で きる。

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。	(1) 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討 ・MCA無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上 ・電話や緊急情報伝達システムに代わる出場指令手段の導入など (2) 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討 ・現行タブレット端末の更新に合わせたアプリやシステムの導入など (3) 各種資器材の更新に合わせた仕様変更等の検討 ・環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減	1 災害発生時の情報伝達手段のあり方 中野区内の消防団では、原則緊急連絡網による電話連絡、または緊急情報伝達システム（一斉メール）を活用しているが、70.6%の団員がグループごとの伝達や既読の判別機能があるLINE等の双方向コミュニケーションツールの方が利便性は高いと考えている。 今後、出場指令の伝達だけでなく、団員のだれもが団員の集結状況、団車両の部署位置、災害対応状況を把握し、一元管理ができる総合的なアプリの開発、導入が望まれる。 また、現在、団幹部等に配置されているMCA無線については、災害現場の情報伝達手段として、各分団に2～3機追加で配置してほしいとの要望がある。 なお、大規模災害（震災等）発生時、既存の通信方法が途絶した場合の情報共有のあり方（アマチュア無線等）について検討する必要がある。 2 各分団等に配置のタブレット端末の機能性向上 タブレット端末の活用は、団本部及び分団本部間のzoom会議、防災訓練指導、震災訓練時などの写真や動画の共有などに留まっている。そこで、タブレット端末に、現在、消防団事務局へ持参している紙ベースの「出場報告」や「被服交換の要求」の電子申請を可能とするアプリまたはシステムを導入することで、団員の利便性の向上と負担軽減を図ることができる。 また、分団本部での教養や防災訓練指導時における教育用端末として、大型モニターに動画等の資料を映し出すことを可能にするなど、機能を向上させることで、より有効に活用されることが期待できる。 3 資器材の仕様変更及び新たな資器材の配置 近年の気候変動の影響から熱中症のリスクは非常に高まっており、防火衣を着装して消火活動を行う消防団員の健康と安全に配慮を要する。そこで、冷却ベストの導入、アイスパック保管用の冷凍庫配置及びより活動しやすい防火衣への仕様変更等について早期に検討すべきである。 また、団員の高齢化及び女性団員の増加傾向を踏まえ、各分団へのリヤカーの配置（コンパクトに折り畳みでき、資器材の搬送や震災時等には担架をのせ傷病者を搬送できる仕様のもの）、ノズルの軽量化等により利便性の向上や負担軽減を図る必要がある。
消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。	(1) 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討 ・具体的訓練目標や到達状況の確認の実施（デジタル訓練日誌の導入や目標成果シートの作成） ・団員の活動技術や実績に応じた識別方策の検討 (2) 経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制等の検討 ・長年の消防団活動で培った知識や技術を実戦的訓練指導への反映（指導マニュアルの作成） ・訓練指導者の研修や体制など制度の検討など (3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討 (4) 訓練効果の確認方策についての検討	1 経験が浅い消防団員への育成方策 団員個々の知識、技術の到達度に応じた識別章を導入することで、知識、技術の段階的習得状況の把握が容易になり、団員のモチベーション向上が期待できる。 また、災害発生時や都民指導時には効率的な任務付与に繋げることができる。 2 経験豊富な団員（指導者）による統一的な教育や技術指導体制の構築 87%の団員が経験豊富な団員からの、知識・技術の伝承が必要だと考えている。そこで、指導者が統一的な指導ができるよう「指導マニュアル」を整備するとともに、指導要領を学ぶための研修が必要である。 3 実動訓練の実施 実動訓練の必要性は、87.7%の団員が感じている。火災対応訓練を中心とした実動訓練を年間通じて複数回は実施し、消防団員の実災害対応能力の向上を図ることが求められる。 なお、実動訓練の内容については地域特性に応じた実践的な訓練を計画していく必要がある。 4 訓練効果の確認方策 消防署及び消防団の幹部が訓練を確認することで訓練内容の統一を図る。 なお、訓練効果の確認方策については、団員の過度な負担にならないよう検討する必要がある。

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する	(1) 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討 - 消防団員が災害活動に従事する意識向上のための方策について - 区や関係団体と連携した、消防団活動の新たな認知度向上方策の検討 (2) 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討 - 地域行事や消防団活動などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策について - 消防団員が行う総合防災教育等を通じた、将来を見据えた児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策について	1 積極的な災害活動の定着化及び区等と連携した普及方策 平時の災害出場時から、消火栓や防火水槽などの水利に付き、ホース延長を積極的に行うことで、災害従事意識の向上と定着化を図るとともに、現場指揮本部と連携し、より実践的な消防活動の推進を図る。 また、区、町会・自治会等が実施する地域イベントでの警戒活動等において、消防団員を紹介する時間を設けてもらうなどイベント等の参加者に消防団活動を知ってもらい、地域との顔の見える関係をより深く築くとともに、SNS や地域の掲示板、回覧板、広報誌等を活用し、消防団と町会等の連携実績などを積極的に PR する。 2 地域からより理解と信頼を得る消防団づくり 住民との交流会や懇親会などの場を設け、消防団への要望を把握するとともに地域の消防団活動への理解を深めていく。 現在も「高等学校での総合防災教育」及び「はたらく消防写生会」等に積極的に参加しているが、消防団員が学校等に出向き、消防団活動の紹介等を含めた授業を行う機会を設けるなど、将来を見据え、児童・生徒の消防団活動に対する理解を促進する。
---	---	---

令和 6 年 8 月 1 9 日

第 2 回中野区消防団運営委員会資料

中野区消防団運営委員会における答申（案）について

資料作成

野方消防署警防課防災安全係

中野区消防団運営委員会における答申（案）

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

はじめに

特別区消防団は、地域になくってはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として住民の負託に応えてきたところである。

さらに、関東大震災から100年が経過したが、この間も阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震など、日本各地で震災による被害が発生しており、地域住民の消防団への期待は益々高まっている。首都直下地震の発生も危惧される中、東京の安全・安心を守っていくためには、地域防災力の中核である消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろから減少に転じ、2050年をピークに高齢化が益々進行すると予測されているほか、近年はDXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところである。

このことから、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策について検討するものである。

第1 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について

令和6年7月1日現在の中野区内の消防団員は391名（定数500名）であり、充足率は78.2%である。充足率向上のためには、入団し活動を継続したいと思える組織づくりが必要不可欠である。そこで、やりがいを感じる活動や、各世代等でやりがいに違いがあるかなど、消防団員の実情を把握し、各団員が団活動にやりがいを持てる方策を検討する必要がある。

1 団活動にやりがいを持てる方策

今回の諮問に基づき、中野区内の消防団員にアンケート調査を実施した。

アンケート結果によると、74%の団員が、①災害活動、②操法大会などの各種訓練、③防災訓練等の地域住民への指導、④救命講習指導、⑤地域行事での警戒活動、⑥広報活動など、消防団としての活動のほぼ全ての項目でやりがいを感じている。

一方で、26%の団員が「どちらともいえない」または「やりがいを感じていない」との回答であり、「やりがいを感じられるようになるためにはどうすれば良いと思うか」を聞いた結果、①実戦的な訓練（消火、救助及び資器材取扱い訓練等）の充実を図る、②人間関係の充実（他の団員との交流、地域住民との密接な関係性構築や連携）を図る、③操法大会の見直し（都大会出場年以外は震災対応訓練にするなど中止又は隔年での実施等）について検討する必要があるとの回答があった。

また、30～40代の比較的団歴が浅い団員は、仕事や子育て等家庭の事情などと、消防団活動（平日夜間の訓練や休日の防災訓練指導及び警戒等）の調整に苦慮している状況が見られる。

以上のことから、団員がやりがいを持って団活動を継続するには、実災害時に地域のために効果的な活動ができるよう実戦的な訓練を充実し、地域住民及び他の団員との良好な人間関係を構築するとともに、30～40代の子育て世代団員の負担軽減策等を検討していく必要がある。

2 資格取得講座の拡充

消防団員として活動する上で今後取得したい資格として、救急関係、無線関係、重機関係の順で回答が多い。しかし、救急関係を除き資格取得講座の受講割当は、消防団ごとに年間数名であり、希望する全ての団員が受講できる環境ではないことから、研修回数の増加等を図る必要がある。

また、防災士、危険物取扱者及び消防設備士等の資格取得を望む団員もいることから、新たな資格取得研修の導入の検討をしていく必要がある。

また、デジタルスキルや無線に関する知識など、消防団活動に有益となる知識を持つ消防団員もいることから、他の団員に対する講話や研修の機会を設けることで、団員の多様な能力を活かすとともに、消防団全体の能力向上が期待できる。

3 地域と密着した各種講習や教養講座の発掘

地域の各種団体や事業所等からの要請による救命講習では、消防団員が指導者として大きな力となっている。アンケート結果によると「地域住民と密接に係われ、繋がりや貢献を感じる災害活動以外にやりがいを感じる。」と回答している団員が4.7%おり、消防団協力事業所等と連携した講習、講座や地域で行われるワークショップへの参画など、様々な機会を通じて地域との関係性を強化していくことで、消防団員のやりがいの向上が期待できる。

第2 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について

中野区内の消防団では、災害発生時に各消防署所から該当区域を受け持つ分団長等に電話連絡をし、各分団長がそれぞれの方法で各団員に情報を伝達している状況である。令和3年に導入されたタブレット端末についても使用頻度が高いとは言えず、有効に活用できれば情報収集の重要なツールになることは明らかである。

また、団員の高齢化及び女性団員の増加傾向を踏まえ、新たな資器材を導入し、負担軽減を図ることが必要である。このような中、最新の技術等を考慮した活動環境の改善が課題である。

1 災害発生時の情報伝達手段のあり方

中野区内の消防団では、原則緊急連絡網による電話連絡、または緊急情報伝達システム（一斉メール）を活用しているが、70.6%の団員がグループごとの伝達や既読の判別機能があるLINE等の双方向コミュニケーションツールの方が利便性は高いと考えている。

今後、出場指令の伝達だけでなく、団員の誰もが団員の集結状況、団車両の部署位置、災害対応状況を把握し、一元管理ができる総合的なアプリの開発、導入が望まれる。

また、現在、団幹部等に配置されているMCA無線については、災害現場の情報伝達手段として、各分団に2～3機追加で配置してほしいとの要望がある。

なお、大規模災害（震災等）発生時、既存の通信方法が途絶した場合の情報共有のあり方（アマチュア無線等）について検討する必要がある。

2 各分団に配置のタブレット端末の機能性向上

タブレット端末の活用は、団本部及び分団本部間のZOOM会議、防災訓練指導、震災訓練時などの写真や動画の共有などに留まっている。そこで、タブレット端末に、現在、消防団事務局へ持参している紙ベースの「出場報告」や「被服交換の要求」の電子申請を可能とするアプリまたはシステムを導入することで、団員の利便性の向上と負担軽減を図ることができる。

また、分団本部での教養や防災訓練指導時における教育用端末として、大型モニターに動画等の資料を映し出すことを可能にするなど、機能を向上させることで、より有効に活用されることが期待できる。

3 資器材の仕様変更及び新たな資器材の配置

近年の気候変動の影響から熱中症のリスクは非常に高まっており、防火衣を着装して消火活動を行う消防団員の健康と安全に配慮を要する。そこで、冷却ベストの導入、アイスパック保管用の冷凍庫配置及びより活動しやすい防火衣への仕様変更等について早期に検討すべきである。

また、団員の高齢化及び女性団員の増加傾向を踏まえ、各分団へのリヤカーの配置（コンパクトに折り畳みでき、資器材の搬送や震災時等には担架をのせ傷病者を搬送できる仕様のもの）、ノズルの軽量化等により利便性の向上や負担軽減を図る必要がある。

第3 消防力維持のための計画的な人材育成方策について

中野区消防団員の平均年齢は約52歳であり、若年層の団員が占める割合は低く、実戦経験のある団員の高齢化が進行している。消防団の訓練は操法大会の訓練が中心であり、実動的な訓練を行う機会が少ない状況である。

また、訓練指導者について明確な決まりがないことから、訓練指導体制を確立するとともに、指導者側のモチベーション向上も必要である。

1 経験が浅い消防団員への育成方策

団員個々の知識、技術の到達度に応じた識別章を導入することで、知識、技術の段階的習得状況の把握が容易になり、団員のモチベーション向上が期待できる。

また、災害発生時や都民指導時には効率的な任務付与に繋げることができる。

2 経験豊富な団員（指導者）による統一的な教育や技術指導体制の構築

87%の団員が経験豊富な団員からの、知識・技術の伝承が必要だと考えている。そこで、指導者が統一的な指導ができるよう「指導マニュアル」を整備するとともに、指導要領を学ぶための研修が必要である。

3 実動訓練の実施

実動訓練の必要性は、87.7%の団員が感じている。火災対応訓練を中心とした実動訓練を年間通じて複数回は実施し、消防団員の実災害対応能力の向上を図ることが求められる。

また、実動訓練の内容については地域特性に応じた実戦的な訓練を計画していく必要がある。

4 訓練効果の確認方策

消防署及び消防団の幹部が訓練を確認することで訓練内容の統一を図る。

なお、訓練効果の確認方策については、団員の過度な負担にならないよう検討する必要がある。

第4 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について

消防団の平時における火災対応は、その姿が地域の安全安心に寄与していることに加え、その積み重ねが消防団の災害対応力を向上させ、首都直下地震等での被害を最小限に抑えることに繋がることを認識するなど、消防団員一人一人の災害対応に対する意識の醸成を図る必要がある。

また、これまで以上に町会・自治会等と連携を密にし、消防団の存在をPRすることにより消防団員のモチベーションを向上させる必要がある。

1 積極的な災害活動の定着化及び区等と連携した普及方策

平時の災害出場時から、消火栓や防火水槽などの水利に付き、ホース延長を積極的に行うことで、災害従事意識の向上と定着化を図るとともに、現場指揮本部と連携し、より実戦的な消防活動の推進を図る。

また、区、町会・自治会等が実施する地域イベントでの警戒活動等において、消防団員を紹介する時間を設けてもらうなど、イベント等の参加者に消防団活動を知ってもらい、地域との顔の見える関係をより深く築くとともに、SNSや地域の掲示板、回覧板、広報誌等を活用し、消防団と町会等の連携実績などを積極的にPRする。

2 地域からより理解と信頼を得る消防団づくり

住民との交流会や懇親会などの場を設け、消防団への要望を把握するとともに、地域の消防団活動への理解を深めていく。

現在も「高等学校での総合防災教育」及び「はたらく消防写生会」等に積極的に参加しているが、消防団員が学校等に出向き、消防団活動の紹介等を含めた授業を行う機会を設けるなど、将来を見据え、児童・生徒の消防団活動に対する理解を促進する。

おわりに

「首都直下地震等による東京の被害想定」によると、都心南部直下地震では、最大623件もの火災が同時多発的に発生すると想定されており、消防署と消防団が連携

した活動はもちろんのこと、消防力が劣勢の場合は、消防署、消防団それぞれが単独で消火活動にあたることが想定されている。消防団が単独で活動していくうえで重要となるのは、「自ら考え、判断し、行動する」ことである。これらは、一朝一夕でできるものではないことから、普段の訓練の積み重ねにより習得していくことと、消防団員としての自律的な活動ができるよう意識の醸成が必要である。

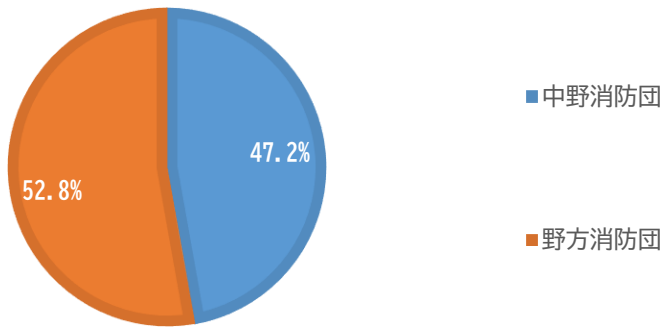
今回実施したアンケートをもとに地域特性に応じた具体的な取組みを推進し、特別区消防団の更なる組織力の向上を図り、消防団員がモチベーションを高く維持して消防団活動ができるよう、地域住民からの期待や感謝を実感できるような広報活動を充実強化するとともに、実戦的訓練により災害活動能力を更に向上させ、地域の安心・安全を確保し住民の負託に応え続けていく。

以上のことを答申するものである。

1 回答者属性（n = 235）

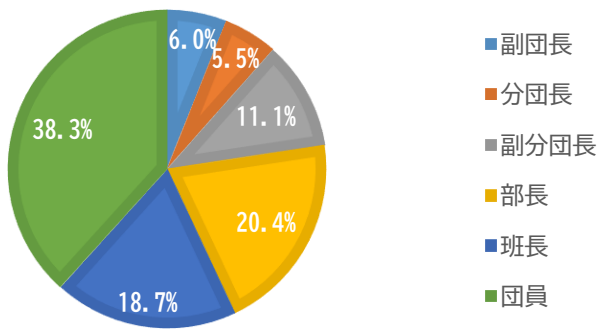
(1) 所属消防団名

	人数	割合(%)
中野消防団	111名	47.2
野方消防団	124名	52.8



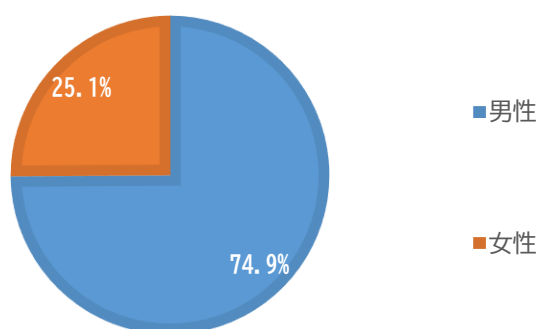
(2) 階級

	人数	割合(%)
副団長	14名	6.0
分団長	13名	5.5
副分団長	26名	11.1
部長	48名	20.4
班長	44名	18.7
団員	90名	38.3



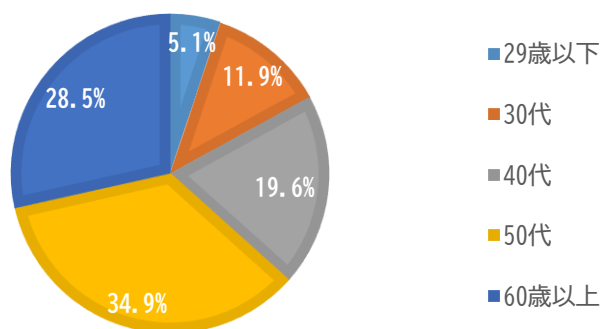
(3) 性別

	人数	割合(%)
男性	176名	74.9
女性	59名	25.1



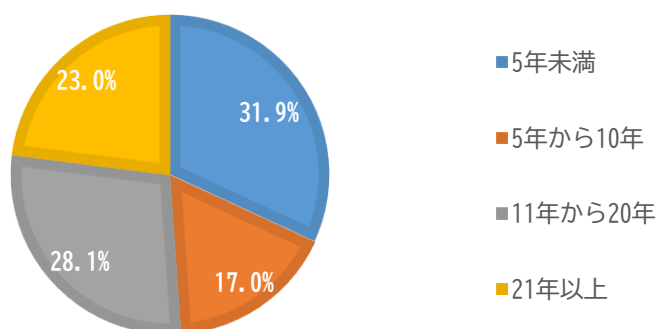
(4) 年齢層

	人数	割合(%)
29歳以下	12名	5.1
30代	28名	11.9
40代	46名	19.6
50代	82名	34.9
60歳以上	67名	28.5



(5) 経験年数

	人数	割合(%)
5年未満	75名	31.9
5年から10年	40名	17.0
11年から20年	66名	28.1
21年以上	54名	23.0

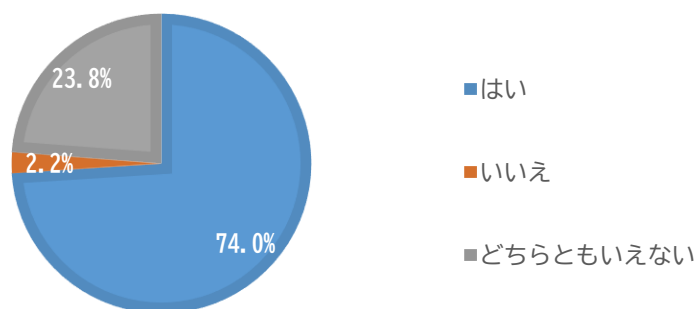


2 アンケート結果

(1) 消防団組織の活性化について

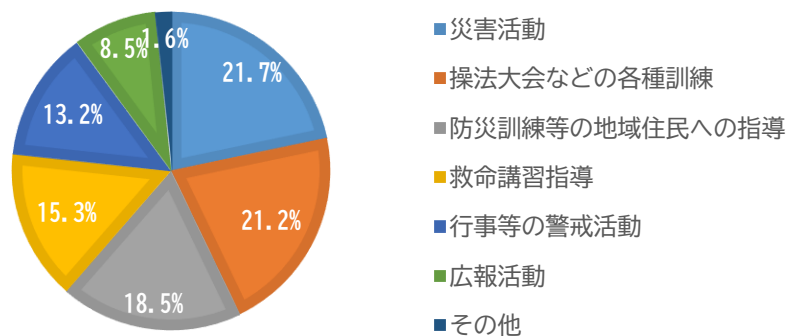
① 消防団活動にやりがいを感じているか、該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
はい	174名	74.0
いいえ	5名	2.2
どちらともいえない	56名	23.8



② ①の設問で「はい」と答えた方のみ対象。やりがいを感じている活動を選択し、該当する者がいない場合は、その他を選択し、内容を記入してください。

	人数	割合(%)
災害活動（水災や火災など）	41名	21.7
操法大会などの各種訓練	40名	21.2
防災訓練等の地域住民への指導	35名	18.5
救命講習指導	29名	15.3
行事等の警戒活動	25名	13.2
広報活動（火災予防、入団促進、PRなど）	16名	8.5
その他	3名	1.6



③ ①で「いいえ」と答えた方のみ対象。「いいえ」とした理由を記入してください。

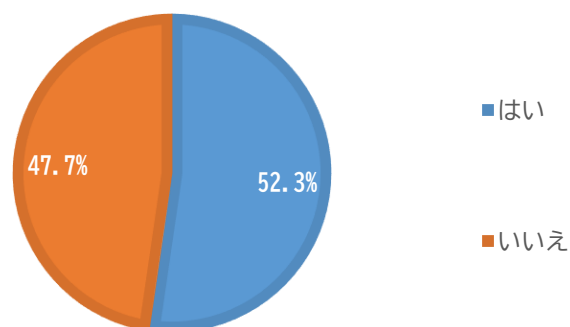
	回答者属性 (年齢層/経験年数)
やりがいは感じなくてよいと思う。災害時や火災の時に役立てるよう、日々準備していればよいと考えている。	60歳以上/ 21年以上
自分自身の得意分野を活かせていない。本業が多忙で、消防団の活動に負担を感じている。	30代/5年未満
自営業で多忙なため、なかなか活動に参加できていない。	40代/ 5年から10年
分団内の環境	40代/5年未満
費用弁償目的の団員がいる。	60歳以上/ 11年から20年

④ ①で「いいえ」または「どちらでもない」と答えた方のみ対象。消防団活動でやりがいを感じられるようになるためには、どうすればよいと思うか記入してください。

	件数
実戦的な訓練（消火訓練、救助訓練、資器材取扱い訓練）の充実	11件
人間関係の充実（他団員との交流、地域住民との密接な関係性の構築）	9件
操法大会の在り方の見直し（取り止め、隔年での実施等）	8件
仕事や家庭との両立	6件
報酬、費用弁償等の周知と適切な支給（額の増減等を含む）	5件
「やりがい」をモチベーションとしていない。または感じられていない	4件
特になし	17件
その他（感想等）	7件

⑤ 消防団員として活動するうえで必要だと思う資格はありますか。

	人数	割合(%)
はい	123名	52.3
いいえ	112名	47.7

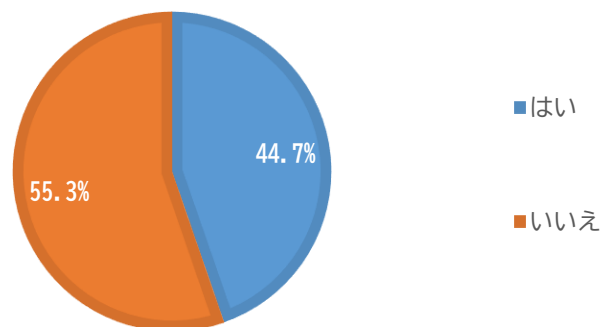


⑥ ⑤で「はい」と答えた方のみ対象。必要だと思う資格を記入してください。

	件数
救急関係資格（救命技能、応急手当普及員、応急手当指導員）	60件
運転免許（大型、二輪等を含む）	24件
重機免許	8件
無線関係資格（MC A、陸上特殊、アマチュア）	7件
防災士	7件
危険物取扱者	7件
消防設備士	4件
可搬消防ポンプ等整備資格	3件
無人航空機操縦士（ドローン操作）	1件
調理師	1件
小型船舶免許	1件
防火管理者、防災危機管理者	1件
その他（資格以外）	3件

⑦ 消防団員として活動するうえで、今後取得してみたいと思う資格がありますか。

	人数	割合(%)
はい	105名	44.7
いいえ	130名	55.3



⑧ ⑦で「はい」と答えた方のみ対象。取得したい資格を記入してください。

	件数
救急関係資格（救命技能、応急手当普及員、応急手当指導員）	34件
無線関係資格（MC A、陸上特殊、アマチュア）	13件
重機免許	10件
防災士	9件
無人航空機操縦士（ドローン操作）	7件
危険物取扱者	7件
小型船舶免許	5件
消防設備士	4件
可搬消防ポンプ等整備資格	3件
電気系資格（電気工事士、可搬系発電機整備技術者）	2件
防火管理者	1件
防災危機管理者	1件
B C P（事業継続計画）関連資格	1件
防火対象物点検資格者	1件
運転免許	1件
その他（資格以外）	5件

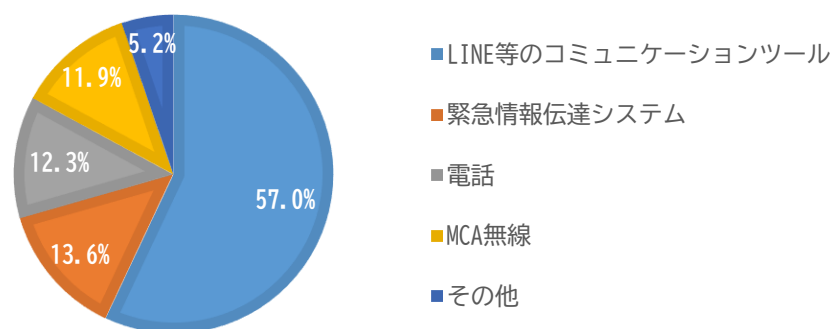
⑨ 消防団の活動に活かせる知識、技術及び資格があれば教えてください。

資格	可搬消防ポンプ等整備資格		無人航空機操縦士	
	運転免許	重機免許	船舶免許	
	自動車整備士	救急関係資格	無線関係資格	
	電気系資格	危険物取扱者	ガス溶接技能者	
	鍼灸師	看護師	助産師	
	防災士	社会福祉士	介護福祉士	
	保育士	通訳案内士	防火・防災管理者	
技術	語学	手話	消火技術	
知識	高齢者や障がい者への介助の知識			
	防火・防災に関する知識			
	地域に関する知識（我が町の特性等）			
	I T関連の知識			
	メンタルケアに関する知識			
	過去の災害に関する知識			

(2) 消防団の活動環境の改善について

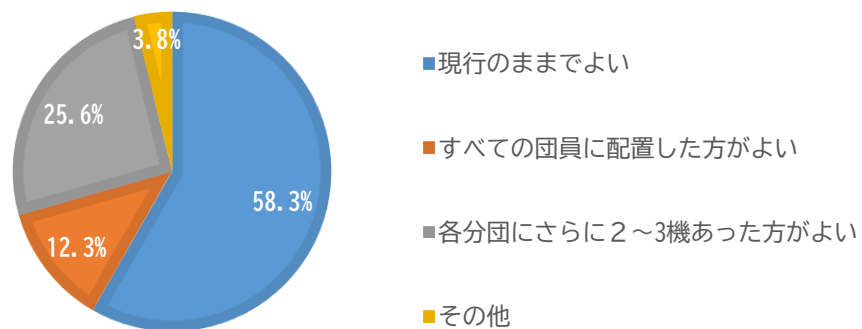
① 災害発生時の連絡方法として、望ましいと思われるものを選択してください。

	件数	割合(%)
LINE等のコミュニケーションツール	134件	57.0
緊急情報伝達システム	32件	13.6
電話	29件	12.3
MCA無線	28件	11.9
その他	9件	5.2



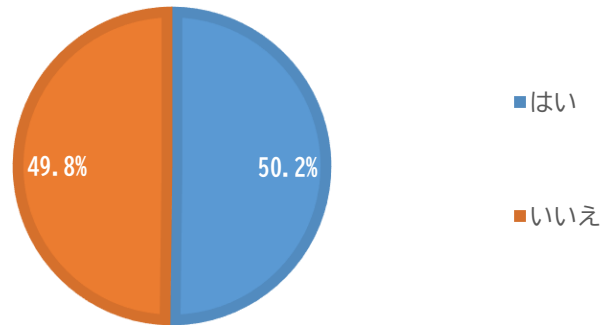
② MCA無線の配置数について該当するものを選択してください。

	件数	割合 (%)
現行のままでよい	137件	58.3
すべての団員に配置した方がよい	29件	12.3
各分団にさらに2～3機あった方がよい	60件	25.6
その他	9件	3.8



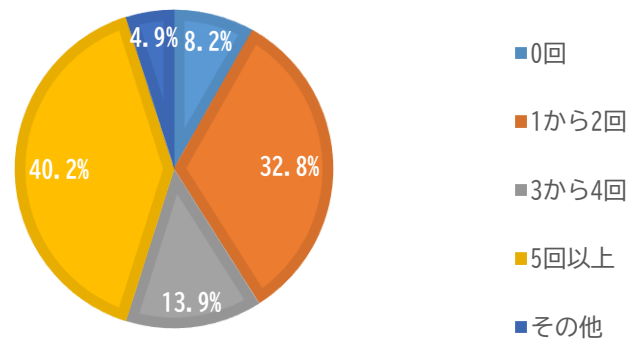
③ これまでタブレット端末を自分で使用したことがありますか。

	人数	割合(%)
はい	118名	50.2
いいえ	117名	49.8



④ ③で「はい」と答えた方のみ対象。一年間の使用頻度について、該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
0回	10名	8.2
1から2回	40名	32.8
3から4回	17名	13.9
5回以上	49名	40.2
その他	6名	4.9



- ⑤ ③で「いいえ」と答えた方のみ対象。タブレット端末を利用したことがない理由を記入してください。

	人数
利用する機会がなかったから	47名
担当者が利用、管理を行っているから	19名
利用する必要があるから	10件
存在を知らないから	6名
使用方法が分からないから	6名
特に理由はない	5名
その他(個人所有の端末と認識した回答等)	14名
未回答	10名

- ⑥ 今後タブレット端末に追加したいアプリや機能があれば記入してください。

	件数
なし	97件
分からない	63件
L I N E	8件
キャスト、ミラーリング機能	7件
消火栓配置マップ	6件
災害情報マップ	5件
翻訳アプリ	2件
行政アプリ（なかのE Y E）	2件
出場報告アプリ	2件
A E D設置マップ	1件
安否確認機能	1件
被服要求アプリ	1件
D r o p b o x	1件
W o r d	1件
E x c e l	1件
資器材の取扱説明機能	1件

- ⑦ 現在配置されている装備資器材について、仕様などを変更することで、利便性の向上や負担軽減が期待できるものがあれば記入してください。

	件数
なし	91件
分からない	45件
筒先（ガンタイプノズル導入、軽量化など）	13件
可搬ポンプ	13件
被服	8件
発電機（ソーラー、蓄電式など）	8件
ホース	7件
チェーンソー	7件
タブレット端末	6件
分団庫	4件
水槽	3件
投光器	2件
マウンテンバイク	2件
吸管	2件
防火衣	2件
その他	6件

- ⑧ 現在配置されている装備資器材以外で、消防活動で必要と思われる資器材があれば記入してください。

	件数		件数
なし	94件	非常用トイレ	2件
分からない	51件	ホースバッグ	2件
ポータブル電源	10件	ジャッキ	2件
照明	7件	ラジオ	2件
無線機（受令機を含む）	6件	作業手袋	2件
車椅子	3件	散水栓	1件
ポンプ（D級、水中など）	3件	救助犬	1件
リヤカー	3件	冷却材	1件
ナビゲーションシステム	3件	自転車用サイレン	1件
オートバイ	3件	消火器	1件
消防団員専用アプリ	3件	トランシーバー	1件
資器材運搬用の台車	2件	規制線テープ	1件
無人航空機（ドローン）	2件	清掃用具	1件

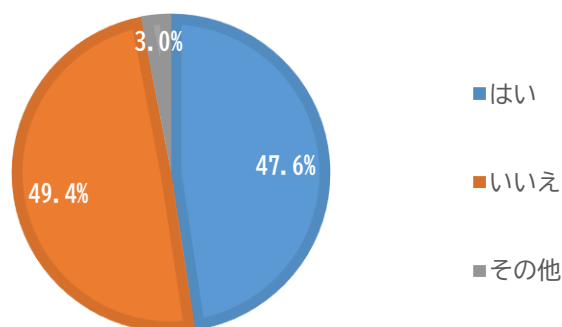
(3) 消防団員の人材育成について

- ① 消防団員として、今後どのような訓練を行っていけば良いと思うか、該当するものを選択してください。（複数選択可）

	件数
実動訓練（訓練棟や積載車などを活用した放水訓練）	170件
救助訓練（救助資器材及びロープの取扱い等）	150件
応急救護訓練	144件
操法訓練	45件
大規模災害対応訓練	16件
情報伝達訓練	2件
隣接分団との合同訓練	2件
参集訓練	1件
地域住民を招待した公開訓練	1件
町会との連携訓練	1件
車両運行訓練	1件

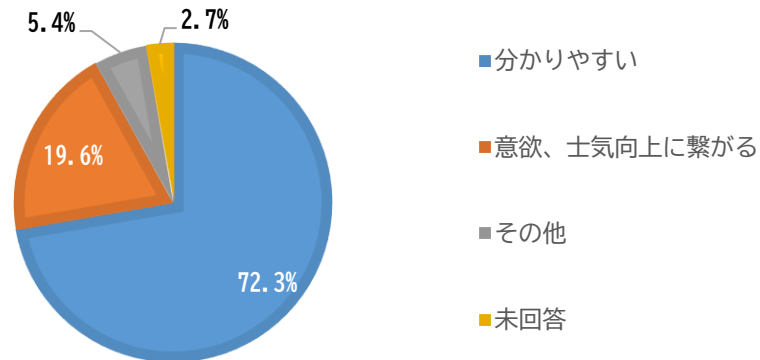
- ② 消防団員の活動技術や実績により、階級とは別に活動服に何らかの識別をした方がよいと思うか、該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
はい	110名	47.6
いいえ	116名	49.4
その他	7名	3.0



③ ②で「はい」と答えた方のみ対象。識別を行った方がよい理由を記入してください。

	件数	割合(%)
分かりやすい（災害時の役割明確化に繋がる等）	81件	72.3
意欲、士気向上に繋がる	22件	19.6
その他	6件	5.4
未回答	3件	2.7

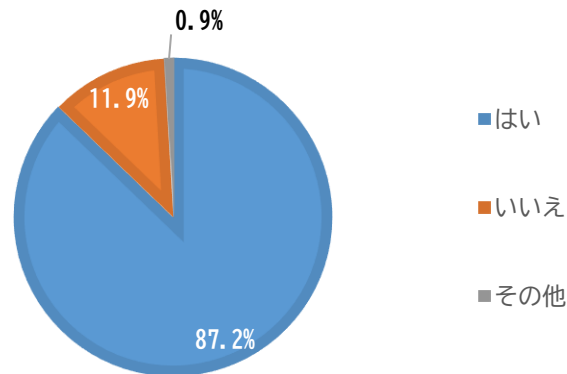


④ ②で「いいえ」と答えた方のみ対象。識別を行わない方がよい理由を記入してください。

	件数
必要性を感じない	41件
意味がない	11件
シンプルな方がよい	11件
階級や資格に関係なく、必要な対処をしなければいけないから	11件
備品管理が煩雑で、紛失の可能性が出てくるから	4件
識別章新設にかかる費用が無駄	4件
差別に繋がる	4件
恥ずかしい、自信がない	2件
資格がないことを引け目に感じてしまう	2件
地域住民へ不安を与えかねない	1件
分からない	3件
未回答	20件

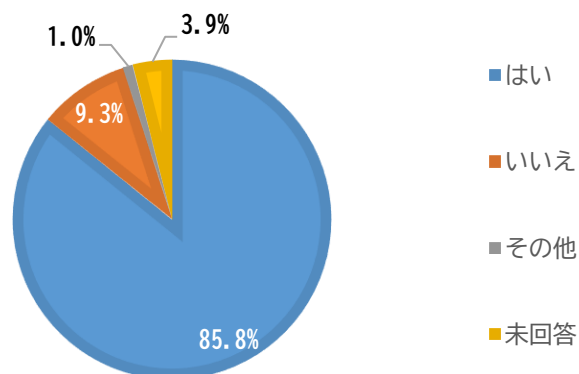
- ⑤ 経験豊富な団員が訓練指導者となり、経験が浅い団員への知識、技術を伝えるための講習や指導を行う必要があるか、該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
はい	205名	87.2
いいえ	28名	11.9
その他	2名	0.9



- ⑥ ⑤で「はい」と答えた方のみ対象。指導を行う上で、訓練指導者のために研修を行う必要があるか該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
はい	176名	85.8
いいえ	19名	9.3
その他	2名	1.0
未回答	8名	3.9

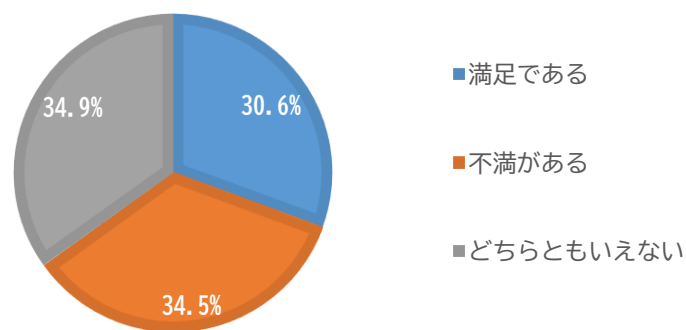


- ⑦ ⑥で「はい」と答えた方のみ対象。訓練指導者として必要な研修項目について該当するものを選択してください。（複数選択可）

	件数
消火技術に関する研修	154件
救助技術に関する研修	141件
応急救護に関する研修	135件
機関運用に関する研修	122件
指揮技術に関する研修	96件
デジタル機器の取扱いや運用に関する研修	90件
消防団の知識に関する研修	3件
ポンプ操法に関する研修	2件
ハラスメントに関する研修	1件
その他（設問趣旨と異なる回答）	3件

- ⑧ 操法大会に関する訓練環境について、該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
満足である	72名	30.6
不満がある	81名	34.5
どちらともいえない	82名	34.9

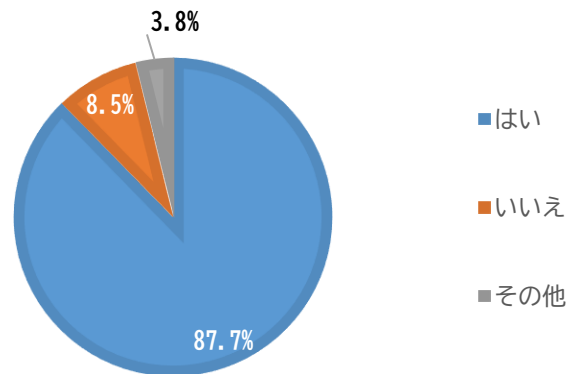


- ⑨ ⑧で「不満がある」または「どちらともいえない」と答えた方のみ対象。その理由を記入してください。

	件数
操法大会は必要ない、縮小すべき	31件
訓練場所の確保が困難	16件
訓練環境の不良（暗い、狭い等）	15件
時間の制約がある（仕事・私生活との兼合い、拘束時間の長さ等）	14件
参加経験がない、または参加経験が少なく判断できない。	13件
地域住民への配慮が必要（騒音対策、苦情対応等）	11件
選手と他の団員との訓練内容や技術向上の差が大きい	8件
分団ごとの環境の差	8件
公道使用に伴う制約等	6件
規律が重要視されすぎている	4件
訓練頻度が高すぎる	3件
良し悪しあり判断できない	3件
操法訓練の採点基準	3件
人数確保が困難	3件
ハラスメントに近い指導がある	2件
消火栓使用	2件
夜間訓練が負担	2件
訓練予備日の確保が困難	1件
強制感が強い	1件
未回答	17件

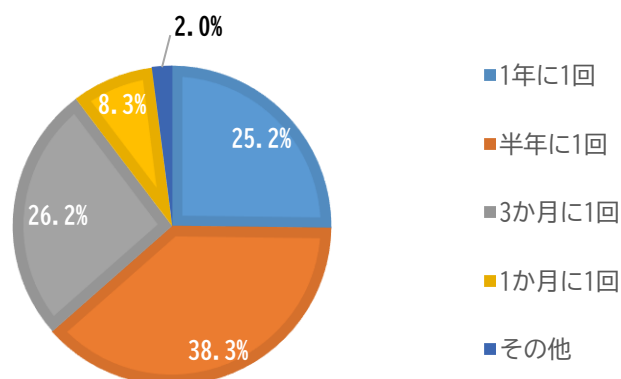
- ⑩ 操法大会とは別に実動訓練を行う必要があると思うか、該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
はい	206名	87.7
いいえ	20名	8.5
その他	9名	3.8



- ⑪ ⑩で「はい」と答えた方のみ対象。実動訓練を行う場合、訓練の頻度について該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
1年に1回	52名	25.2
半年に1回	79名	38.3
3か月に1回	54名	26.2
1か月に1回	17名	8.3
その他	4名	2.0

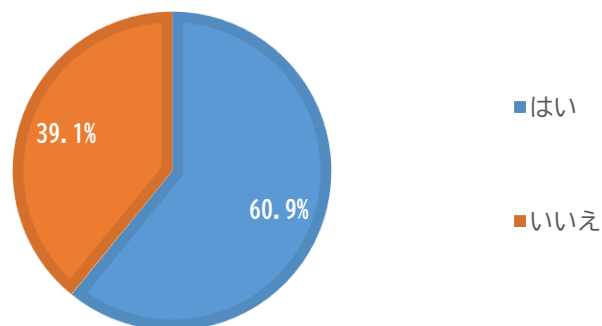


⑫ ⑩で「いいえ」と答えた方のみ対象。理由を記入してください。

	件数
現状維持で十分	4件
時間を作ることが困難	3件
負担が大きい	2件
実動は消防職員の支援程度がよいと考える	2件
操法訓練や月例訓練でかなりの時間を使っている	1件
消防団の出来る範囲でよい	1件
操法大会は実動に使えない	1件
一年経つと動作を忘れる。選手以外は上の空。	1件
分からない	1件
特になし	1件
未回答	3件

⑬ 実動訓練を実施する場合、その訓練の効果（訓練の成果）を消防団や消防署の幹部等が確認する場を設けた方がよいと思いますか。該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
はい	143名	60.9
いいえ	92名	39.1



⑭ ⑬で「はい」と答えた方のみ対象。その理由を記入してください。

	件数
訓練内容の正誤、成果の確認のため	63件
消防署員から指導や講評を受け、反映させるため	17件
技術向上のため	10件
モチベーションの向上のため	9件
安全性の担保のため	8件
訓練自体が目的にならないようにするため	5件
分団の枠を超えて共通認識を持つため	3件
緊張感を保つため	2件
データ収集のため	2件
団と消防署の連携のため	1件
その他（設問趣旨と異なる意見）	3件
未回答	18件

⑮ ⑬で「いいえ」と答えた方のみ対象。その理由を記入してください。

	件数
必要ない	19件
操法大会のような形になり、負担が増える	16件
訓練を行い、実災害対応能力を向上させることが重要で評価は不要	13件
分団ごとにしっかり取組み、確認・検証が出来れば十分	10件
訓練指導者が、その都度評価すればよい	6件
質問の趣旨が不明	3件
消防署の負担が大きい	2件
評価しても公開しなければ意味がない	1件
未回答	14件

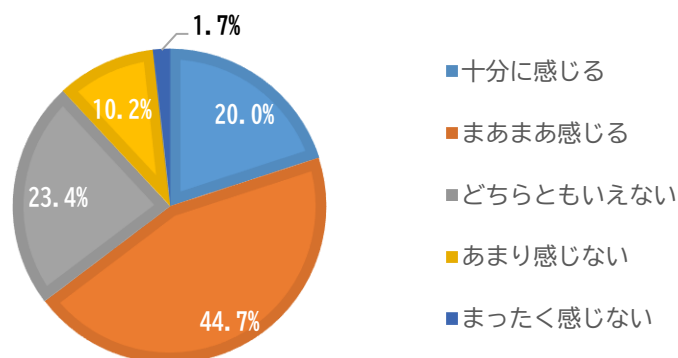
(4) 消防団を地域住民により知ってもらう方策について

- ① 消防団の活動状況を、地域住民により認知してもらうために、どのような取組みがよいか選択してください。(複数選択可)

	件数
関係機関の掲示板に定期的にポスター等を掲示してもらう	121件
区役所や区民事務所において映像を流す	117件
消防団のホームページの活用	96件
ポスター等を回覧で回す	87件
地域活動への参加	11件
SNSの活用	11件
イベントやお祭りの機会を利用した広報	10件
保育園、幼稚園、小中学校での講話等	6件
町会の集まり、学校行事、イベント等での操法展示	3件
テレビコマーシャル	3件
インターネット広告	2件
駅や電車内広告	2件

- ② 地域の行事や消防団の行事を通じて、町会・自治会や地域住民と密接した関係を築けていると感じているか、該当するものを選択してください。

	人数	割合(%)
十分に感じる	47名	20.0
まあまあ感じる	105名	44.7
どちらともいえない	55名	23.4
あまり感じない	24名	10.2
まったく感じない	4名	1.7



③ ②で選択した項目について、なぜそのように思うのか記入してください。

ポジティブな意見	件数
町会行事での警戒、防災訓練などで接触機会が多く、関係が密接だから	6 4 件
地域住民から、消防団員として感謝や労い等の声掛けを受けるから	2 2 件
消防団員が町会等でも何らかの役割を担っているから	1 1 件
消防団員として認知されている実感があるから	8 件
町会から理解と協力が得られているから	4 件
地域住民の意向を聞き、活動に反映させているから	1 件
新年会の様子を見て	1 件

ネガティブな意見	件数
消防団として、町会・自治会、地域住民と接する機会が乏しいため	2 4 件
消防団員に対する興味、関心の低さ、認知度の低さを感じるから	1 6 件
高齢化や参加者の減少に伴い、町会・自治会、消防団双方の人員が固定化されている感があるから	5 件
消防団活動において町会・自治会との関係性を実感することがない	2 件
消防団活動中に苦情を受けることもあるから	1 件
普段の消防団活動で、町会・自治会を意識することがないから	1 件

その他の意見	件数
町会・自治会ごとに関係性に差があるため判断出来ない	1 2 件
消防団活動への参加が少なく、判断出来ない	7 件
町会・自治会についてよく分からないから判断出来ない	2 件
地域住民の意見を聞いたことがないから判断出来ない	1 件
特に理由はない、分からない	2 2 件

- ④ 今後、町会・自治会や地域住民と密接した関係を築くために必要だと思うことについて、自由に記入してください。

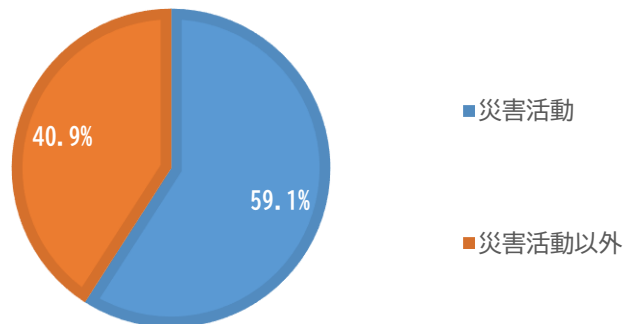
	件数
町会・自治会行事への参加機会を増やし、顔の見える関係を築く	70件
交流会や懇親会などの場を設け、地域住民とより一層の交流を図る	33件
町会・自治会との合同訓練(防災訓練、応急救護訓練等)を開催する	27件
消防団活動に関する広報を充実させる	15件
消防団員が町会・自治会の役員等になり活動する	9件
現状維持でよい	9件
町会・自治会の方に消防団への入団を促す	4件
有事における町会・自治会と消防団の役割を確認する機会を設ける	3件
区を絡めた連携の強化を図る	2件
消防署が介入する	2件
町会・自治会組織の若返り	2件
消防団の権限を強化する	1件
自助、共助、公助の明確化	1件
町会・自治会の防災組織と消防団の融合を図る	1件
連絡体制の拡充を図る	1件
費用弁償範囲の拡充	1件

- ⑤ 学校などの防災教育において、児童・生徒に地域の消防団の存在や活動を理解してもらう方法があれば記入してください。

	件数
学校へ出向き、消防団活動の紹介等を含めた授業等の実施	35件
避難訓練や写生会など、学校行事への参加	23件
参加型、体験型の学習や訓練機会の増設	20件
操法や消火・救助訓練の様子を学校で展示し、見学してもらう	20件
広報活動の充実	15件
救命講習の開催（保護者等も併せて）	8件
団本部等の見学会を、課外授業のカリキュラムへ加えてもらう	2件
登下校の見守り活動に、消防団員が活動服で対応する	2件
区、町、署、団での連携を図る	2件
大規模イベントの開催	2件
現状のままでよい	2件
保護者へ消防団への入団を促進する	1件

- ⑥ 消防団の活動として、災害活動と災害活動以外を比較した場合に、どちらの方がやりがいを感じると思うか選択してください。

	人数	割合(%)
災害活動にやりがいを感じる	139名	59.1
災害活動以外にやりがいを感じる	96名	40.9



- ⑦ ⑥で「災害活動にやりがいを感じる」と答えた方のみ対象。その理由を記入してください。

	件数
災害対応が消防団としての本来任務、目的と考えているから	32件
地域貢献が実感出来るから	12件
人の役に立っていると実感出来るから	11件
やりがいはどちらにも感じている	8件
有事の際に即応出来るようにとの認識があるから	7件
消防団員でないと出来ない活動だから	7件
災害対応することで得られる知識や技術があるから	5件
活動服を着用することによりやりがいを実感するから	2件
緊張感があるから	2件
普段の訓練を活かすことが出来るから	2件
想定される大地震に備えて、覚悟、自信をつけたいから	2件
災害活動の方が現実的だから	1件
他人から感謝の言葉をもらえるから	1件
費用弁償を受けているから	1件
災害時に必要とされる存在だから	1件
達成感があるから	1件
消防団の活動で災害被害を最小限に抑えることが出来るから	1件
その他（「やりがいとは？」等、理由以外の意見）	10件
特になし	8件
未回答	20件

⑧ ⑥で「災害活動以外にやりがいを感じる」と答えた方のみ対象。その理由を記入してください。

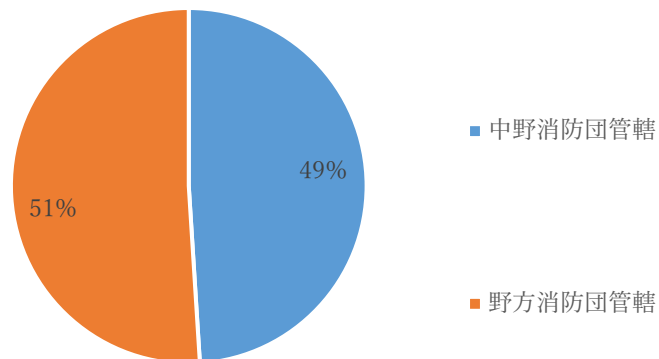
	件数
災害活動の経験、機会がないから	23件
災害に対する備えとして、日頃の災害以外の活動に重要性を感じるから	17件
地域住民と、より密接に係われ、繋がりが貢献を感じるから	11件
現状の災害現場での活動状況を考えると、やりがいを見出しにくいから	6件
災害活動以外が広報等に繋がるなど、よりやりがいを感じられるから	3件
現状、災害活動対応よりも頻度が高いから	3件
労いや感謝の言葉をかけられた経験から	2件
災害活動より需要があると感じるから	1件
プレッシャーがあまりかからないから	1件
女性なので、災害活動での体力的不安が大きいから	1件
駅で急病人に対してバイスタンダーとして対応した経験から	1件
まず地域活動から消防団を理解してもらいたいと思うから	1件
消防団という範囲を超えないことがよい	1件
予定を組めるから	1件
どちらにもやりがいを感じる、またはどちらにもやりがいを感じない	2件
その他（理由ではなく、団活動に関する意見等）	6件
未回答	16件

町会・自治会アンケート 結果

資料 4

○ 回答者属性 (n = 49)

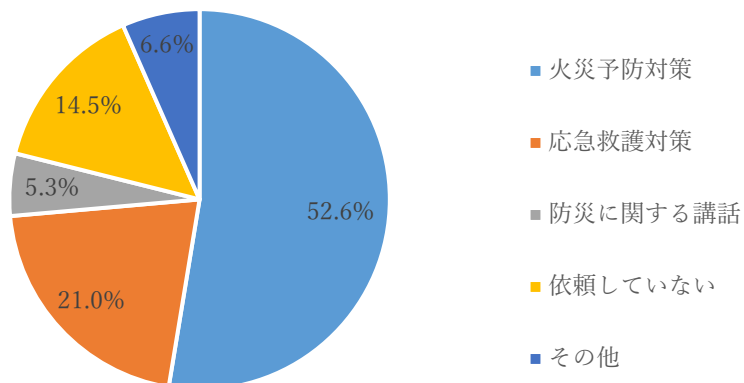
	町会・自治会数	割合(%)
中野消防団管轄町会・自治会	24	49.0
野方消防団管轄町会・自治会	25	51.0



○ アンケート結果

- 1 お祭りなどの地域行事において、消防団に依頼している内容について、該当するものを選択してください。(複数選択可)

	件数	割合(%)
火災予防対策	40	52.6
応急救護対策	16	21.0
防災に関する講話	4	5.3
依頼していない	11	14.5
その他	5	6.6

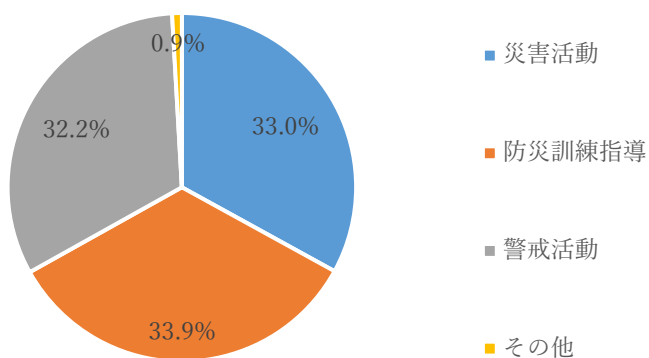


2 1の設問で「依頼していない」を選択した町会・自治会のみ対象。その理由を記入してください。

	件数
依頼すべき内容がない	3
過去に依頼をした実績がなく例年に倣っている	2
日常的な繋がりが無い	2
消防団ではなく消防職員に依頼することで対応している	2
過去に依頼した際に、団行事との重なりを理由に断られた	1
何を依頼してよいか分からない	1

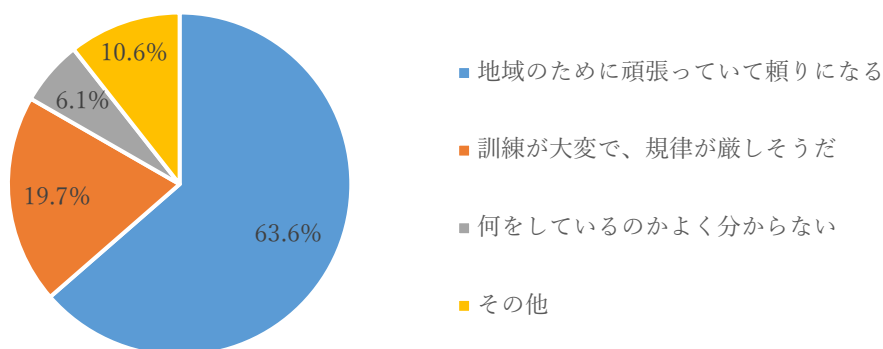
3 消防団に期待する活動について、該当するものを選択してください。（複数選択可）

	件数	割合(%)
災害活動	38	33.0
防災訓練指導（消火訓練や応急救護訓練指導など）	39	33.9
警戒活動（お祭りや年末年始の警戒など）	37	32.2
その他	1	0.9



4 消防団に対して、どのようなイメージを持っていますか。該当するものを選択して回答してください。（複数選択可）

	件数	割合(%)
地域のために頑張っていて頼りになる	42	63.6
訓練が大変で、規律が厳しそうだ	13	19.7
何をしているのかよく分からない	4	6.1
その他	7	10.6



5 消防団の活動状況を地域住民に理解してもらうために、どうすれば良いと思うか記入してください。

	件数
地域行事へ積極的に参加し、地域住民と顔の見える関係性を築くべき	18
SNS や地域の掲示板、回覧板、広報誌などを活用し、積極的に PR すべき	17
消防署との違いを明確にしたアピールをすべき	2
町会と消防団で直接対話する機会を作ってほしい	2
防災訓練や応急救護訓練の指導をしてほしい	2
地域の現状把握に努めるべき	1
地域住民が消防団を理解するために努力すべき	1
積載車で昼夜にこだわらず警戒活動をすればよい	1
特になし	5

中野区町会・自治会に対するアンケート

スマートフォン等で回答する場合はこちらから→



【設問 1】

貴町会・自治会を管轄している消防団について、該当する番号に○をしてください。

- 1 中野消防団
- 2 野方消防団

【設問 2】

お祭りなどの地域の行事において、消防団に依頼している内容について、該当する番号に○をしてください。「5 その他」を選んだ方は、意見を記入して下さい。（複数回答可）

- 1 火災予防対策
- 2 応急救護対策
- 3 防災に関する講話
- 4 依頼していない
- 5 その他

【設問 3】

設問 2 で「4 依頼していない」を選択した方のみ回答してください。「依頼していない」理由を記入してください。

【設問 4】

消防団に期待する活動について、該当する番号に○をしてください。「4 その他」を選んだ方は、意見を記入して下さい。（複数回答可）

- 1 災害活動
- 2 防災訓練指導（消火訓練や応急救護訓練など）
- 3 警戒活動（お祭りや年末年始の警戒など）
- 4 その他

()

【設問 5】

消防団に対してどのようなイメージを持っていますか。該当する番号に○をしてください。「4 その他」を選んだ方は、意見を記入して下さい。（複数回答可）

- 1 地域のために頑張っていて頼りになる。
- 2 訓練が大変で、規律が厳しそうだ
- 3 何をしているのかわからない
- 4 その他

()

【設問 6】

消防団の活動状況を、地域住民に理解してもらうために、どうすれば良いと思うか記入してください。

()

※（ ）内に書ききれない場合は、裏面の余白部分をご活用ください。ご協力ありがとうございました。

委員会日程（案）

開催回	審議内容
第 2 回 令和 6 年 8 月 1 9 日（月） 1 5 時 0 0 分から 1 7 時 0 0 まで	1 今回の諮問事項に係る答申案の検討について 2 委員会日程について 3 その他
第 3 回 令和 7 年 1 月中または 2 月中	1 答申案の審議 2 答申の決定